

プロジェクトで取り組んだ課題

- 住民側と多様なアクションを重ねながらのふるさと再生を目指す仙台荒浜復興基本構想案づくり。
1. 目標づくり：総体安全、歴史と自然の持続可能な農漁住楽エコまちづくり、分散型整備と集約型整備、住民主体／行政・民間の協働
  2. 活動づくり：ふるさとを目指す多様な身振り—おめげつつあん、もちつき、田植え、ロジづくり、居場所づくり、クラフトづくり等
  3. 計画づくり：3-1. 分散型居場所づくり、3-2. 集約型産業・生活空間づくり
  4. 態勢づくり：中間支援———大学・NPO・コンサルタント等（空間形成支援グループ等）

プロジェクトの結果（≡提言の内容）はどのようなものか

- 制度の趣旨や内容をよく理解しないままの、杓子定規な運用（防災集団移転事業、災害危険地域指定）をこえるために行政と住民をつなぐ第三者委員会を立ち上げる
4. 態勢づくり：4-1. 中間支援———大学・NPO・コンサルタント等（空間形成支援グループ等）、4-2. 行政と住民の対話・協働の場、4-3. 世論の育み、4-4. 住民仲間ふやし
  5. 仕組づくり：5-1. 土地の整序（現状で権利関係を封鎖、新たな地盤の創設、土地交換分合）、5-2. 土地利用の方針（地権者換地 4 割（うち宅地 4 割、農地 6 割—農住一体化ラインガルデン）、公共 3 割、民間 3 割）、5-3. 復興事業推進への配慮（特区適用を想定、土地区画整理事業法を活用、小規模土地権利者の配慮（新町の宅地減歩 0、現地換地など）

プロジェクトの結果（≡提言）は、何を变えることを狙って、誰に向けて発信するか

仙台市と住民の対話の状況をひらき、災害危険区域条例指定解除等、移転する自由と現地再生する自由の両面価値の実現できるよう制度づくりにつなげていく。

「住民の生活世界に基づいた支援の観点からの対話と協働によるふるさと再生計画構築プロセス」

延藤 安弘 まちの縁側育み隊

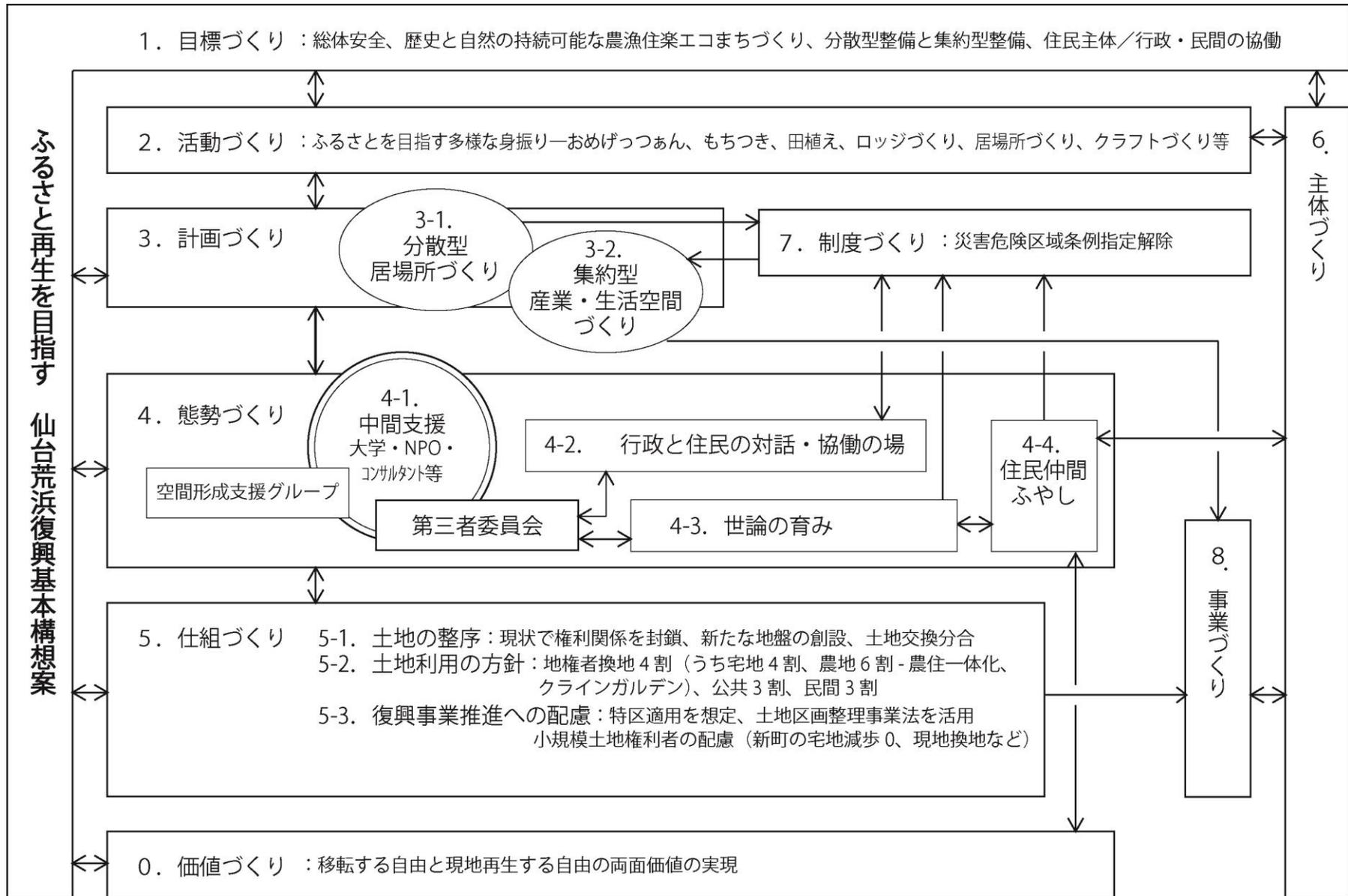


図1 ふるさと再生を目指す 仙台荒浜復興基本構想案